

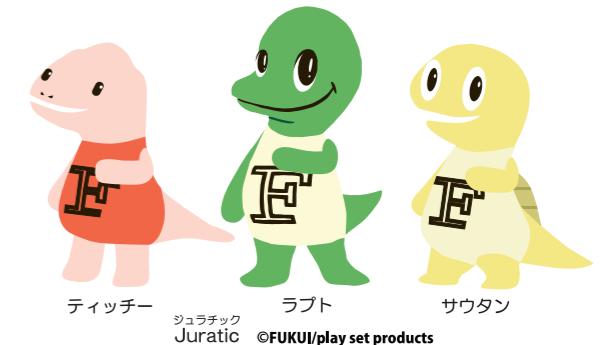
6月補正予算が成立 ふくいのふるさと創生予算

西川県政4期目のマニフェスト「福井ふるさと元気宣言」の実現を目指す、平成27年度6月補正予算が6月定例県議会で成立。一般会計の6月補正予算の規模は233億円、当初予算と合わせた一般会計の予算総額は4,823億円(平成26年度当初予算と同規模)となりました。

この補正予算のポイントは「人口減少対策」と「本県の魅力発信、交流人口の拡大」です。

※6月補正予算とは

県の1年間の予算は、2~3月に開かれる県議会に諮り、決めます。これを当初予算といいます。27年度の当初予算は、知事選挙等があったため、県民生活に密接に関連する事業や、継続的な事業を中心とした骨格予算でした。これに、マニフェストを反映した政策的な事業を付け加えるものが、6月補正予算です。



人口減少対策

人口減少が一段と進み、東京への一極集中が加速する中、人口減少社会における「全国モデル」を目指し、若者の県外流出を防ぎ、人と企業を福井県に呼び込む施策の充実などを行います。

大学連携センター(仮称)の設置準備

県都中心部オオツア7階に、学生が集い・学ぶ拠点となる大学連携センター(仮称)を設置するための準備に着手。県内5大学が行う福井の歴史や産業を深く学ぶカリキュラムや、大学合同企業説明会、学生交流イベント、高校生への開放講座などの実施により、中心市街地の賑わい創出と学生の県内定着を促します。



大学連携企画講座の授業風景

産業人材のU・Iターンを促進

人材紹介会社を活用し、都市部の有能な人材をヘッドハンティング。県内企業の競争力強化や新事業展開のための人材確保につなげます。

企業の本社機能を県内へ誘致

県内への企業の本社機能移転を促進するため、移転のための初期投資に対する補助制度を新設するとともに、本県独自の制度として引っ越し経費を助成します。

結婚Uターンを応援

里帰りの時期に合わせ、首都圏在住の福井県出身の女性と、県内在住の男性との婚活交流会を開催。結婚による女性のUターンを後押しします。

若者のチャレンジを応援

地域を応援しようと頑張る若者の活動をさらに活発化させるため、ふくい若者チャレンジクラブによる、地域の伝統行事復活継承のための活動などを支援。また、大学を横断したサークル創設に向け、メンバー募集や交流イベントを開催します。ぜひ、地域を元気にする活動に参加してみませんか。



県内企業でのインターンシップ

私立高校の魅力アップを支援

私立高校生の地元大学等への進学や地元企業でのインターンシップ参加を支援することにより、地元への進学・就職を促進し、若者の県外流出を防ぎます。また、県内私立高校の魅力を高めるため、就職に役立つ資格取得やスポーツ・文化の全国大会での成績に応じた支援などを拡充します。

シニア人材の活躍を支援

専門的な技術や経験を持つシニア人材に対して県内企業とのマッチングを支援し、就職に結びつける「シニア人材活躍支援センター」を設置します。

本県の魅力発信、交流人口の拡大

3年後の国体開催、8年以内の北陸新幹線敦賀開業、中部縦貫自動車道県内区間全線開通に向け、まちづくりや観光地の魅力づくり、産業誘致など8年後の福井の姿を具体化し、県民の総力を結集して実現を目指すためのアクションプランの策定、観光誘客の拠点として恐竜博物館や一乗谷朝倉氏遺跡のレベルアップ、年縞展示施設などの整備に速やかに着手します。



九頭竜川橋りょうを通る北陸新幹線(イメージ)

新幹線開業・中部縦貫道開通アクションプランの策定

福井国体の開催や、高速交通網の整備など、今後、国内外から多くの人々が福井に来る機会をとらえ、「行ってみたい」「住みたい」と思う福井の将来像を具体化し、産業、観光、まちづくりの面で、最大の効果を得るためにアクションプランを策定します。



エラスモサウルスの全身骨格

恐竜博物館、朝倉氏遺跡をレベルアップ

恐竜博物館の本物による魅力をさらに高めるため、大型肉食恐竜「アロサウルス」や、草食恐竜「スペロサウルス」の実物全身骨格など、32体を購入、展示。その中から今年度は首長竜「エラスモサウルス」の組立作業の一部を、国内で初めて公開します。ぜひ、お越し下さい。

また、日本最大の戦国城下町である一乗谷朝倉氏遺跡のミュージアム化を図るために、朝倉氏庭園の再生や博物館の整備に向けた基本計画の策定に着手します。

水月湖年縞を活用

過去7万年分の堆積物が残る年縞。その価値を実感でき、研究、教育観光の拠点となる、展示施設の基本設計に着手。また、国内外での研究を支援するため、年縞を試料として提供します。

福井の将来を担う人材教育

英語力をアップ

国の小学5、6年生の英語教科化に先行して、独自教材や指導案の開発、退職した教員による学習サポート、英語教育人材バンクの創設など、独自の英語教育を全国に先駆けて進めます。また、中学校でのオールイングリッシュ指導を目指し、全国トップクラスの配置数をほこるALTをさらに10人増やします。

企業が求める人材を育てる

新たな学習力指標「福井フューチャーマイスター制度」を設け、県内企業が求める溶接技能者や測量士などの資格取得や、企業への実習参加に対する、職業系高校生の意欲向上を図ります。

わがまち健康づくりの応援、健康サポートシステムを充実

市町で健康づくりを応援

福井しあわせ元気国体・大会の県民運動「1県民1スポーツ」の一環として、ウォーキング大会など市町が行う健康づくりを支援する「1市町1健康づくり」を進めます。また、住民自らも健康づくりに取り組んでもらうため、新たに「わがまち健康推進員」を設置します。

救急搬送の強化

急性心筋梗塞の疑いのある患者の心電図情報を、救急車による搬送中に病院に送り、迅速に治療を開始できるようにします。まず奥越地域から、このシステムの効果の実証を行います。また、患者の転院搬送のための救急車を整備します。

認知症予防を進める

生活習慣の改善や運動、知的活動、社会活動への参加など、独自の認知症予防メニューを作成します。

「安全・安心ふくい」の確立・災害への対応迅速化

臨時ヘリポートを整備

災害による集落の孤立を防ぐため、夜間でもヘリコプターが離発着できるよう照明設備等を整備し、空路による避難手段を確保します。

「里山里海湖」の保全・活用

里山里海湖に触れ親しむ

里山をフィールドに自然体験、観察、再生を学ぶ「福井ふるさと学びの森」を各市町に設け、里山里海湖に触れ親しむ機会を増やします。また、季節の変化と身近な生きものの調査を通して、人の営みと自然との関係を体感する機会を創出します。

福井のローカル産業を応援

宇宙産業への参入を促進

今後の成長が見込まれる宇宙産業への県内企業の参入を進めため、「県民衛星プロジェクト」を始動。県内企業や大学などが共同して行う超小型衛星の開発などを支援します。

ブランド・観光 オンリーワン戦略の実行

外国人観光客を福井県に

福井県が、共感・信頼できるブランドであるというイメージを外国人に持てもらい、旅行者を呼び込みます。また、免税カウンター設置などを支援し、福井県観光情報ホームページ「ふくいドットコム」の英語版を充実させます。

農林水産物のブランド化・里山里海湖ビジネスの新展開

小規模農業者を応援

全国で初めて、県とJAの共動による基金を造成。新たな作物の導入や直売所への喫茶スペース設置、機械の改良など、農業者のアイデアによる地域農業の活性化を応援します。

里山里海湖の資源を活かしたビジネス

ミニ農家レストランや体験交流型農園の整備などを支援し、都市と里山里海湖の交流を通じた農業者の所得向上につなげる「里山里海湖ビジネス」を県下全域で展開します。

福井県を養殖の一大産地に

福井市沖合で初めて成功したトラウトサーモンの養殖を嶺南地域にも拡大。さらに、稚魚から網に入れる大きさになるまでの育成や、そのための設備等の整備を支援します。また、若狭ふぐを超える高級魚として注目されているマハタの養殖技法を開発します。

港湾の機能強化と利用促進

外国のクルーズ船を呼び込む

高い経済効果が見込まれる外国の大型客船を誘致するため、敦賀港において、入出港の基準の検討や、接岸に必要な施設設備を調査します。

また、貨物の増加が見込まれる鞠山南地区に、新しいふ頭用地を造成します。

しあわせ元気国体開催準備を加速

県民参加と選手のレベルアップ

県民総参加の国体を開催するため、国体競技の体験イベントを開催するほか、募金・協賛を開始します。



福井国体・大会
マスコットキャラクター
はぴりゅう

文化・芸術を楽しむ機会の創出、歴史・文化遺産の価値向上

日本遺産を活かす

今年4月、「海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群～御食国若狭と鰐街道～」が日本遺産に認定されました。

そこで、道の駅「若狭熊川宿」の展示リニューアルや、買い物やイベント開催ができる広場の整備を支援。若狭歴史博物館では、日本遺産認定記念展「御食国とサバ街道」を8月8日(土)から開催します。若狭の歴史を楽しく学んでみませんか。

誇りを生み出す「ふるさと政策」の実現

ふるさと納税でプロジェクトを応援

寄付者自らが応援したいプロジェクトを選び、その成果や進捗状況が確認できる仕組みをつくることにより、福井県の政策に共感する寄付者の増加につなげます。また、ふるさとを応援するという制度の本来の趣旨を尊重している全国各地の先進的な事例を表彰します。



ふるさと納税を活用した山里口御門復元予想図